



滝野隆浩の

掃苔記そうたいき

先日、土曜日の朝に布団の中でNHKラジオを聞いていたら、社会学者の上野千鶴子さんが「男子会のすすめ」という話をしていた。女性学の先駆者がなぜ、男性たちに会合を推すのか。思わず聴き入ってしまった。

団塊世代でも「女子会」は盛んらしい。

先生自身、「熟女子会」などでおしゃべりを楽しんでいる。だけど男たちは家から出ない。妻しか話し相手のいない高齢男性のいかに多いことか。地域の会合に参加しない。患者同士でつくる自助グループもパス。弱音が吐けない。フラットな人間関係がつかれない……。 「男子会」つくって、楽しまれてはいかがですか？」。先生はそう呼びかけていた。

同じような話を、公営団地の自治会長から聞いた。食事も、勉強会を企画しても参加者のほとんどは女性たち。じいさんは部屋にこもり切りで、何度呼びかけても生返事のみ。会長は嘆いていた。「バジャママンは孤立死しますよ！」。一日中、寝間着のままにいるらしい。

上野先生にメールした。「男子会」の話、もっと知りたいです。すぐ返信が。本にする予定はないけど、似たようなことは前に書いてます、と。それが2009年に出た「男おひとりさま道」（12年に文庫化）だった。すぐ、役に立つ。男性社会を批判してきた先生、実はオトコの味方だったのかも。

「（日本の）これまでの結婚は、男の『不便』と女の『不安』との結びつきだった」。至言である。経済的にゆとりができて不安がなくなれば、女性は死別・離別しても再婚などしない。しかも未婚が急増し、単身の高齢男性は増えていく一方だ。そのことをデータで示しながら、社会学者は「男おひとりさま」の進むべき道を指し示すのであった。

ラジオでは「男の七戒」なるものを紹介していた。「自分と相手の学歴を言わない、聞かない」「上から目線でものを言わない」など。本に出てくる「10カ条」はさらに具体的である。「第4条 過去の栄光を誇らない」「第7条 女性の友人には下心をもたない」など。65歳になったばかり、「新人高齢者」の私である。先生の忠言を肝に銘じたい。とりあえず「第8条 世代のちがう友人を求める」あたりを実践しようかと思う。若い人が相手にしてくれればの話だけれど。